



第30回全国豊かな海づくり大会 ぎふ長良川大会

### CONTENTS

第30回全国豊かな海づくり大会について .....	増殖推進部栽培養殖課	2
回遊魚 .....	沿岸沖合課 遊漁・海面利用室長 矢吹 哲一朗	4
水産庁が応援！漁業就業支援フェアの紹介 .....	漁政部企画課	5
第62回国際捕鯨委員会（IWC）年次会合の結果について .....	資源管理部遠洋課	6
子ども霞が関見学デー .....		7
平成22年6月のプレスリリース .....		8

# 第30回全国豊かな海づくり大会について

増殖推進部栽培養殖課

6月13日（日）、第30回全国豊かな海づくり大会が、岐阜県関市文化会館（式典行事）及び同市池尻の長良川河畔（放流・歓迎行事）で開催されました。今年の岐阜大会は、全国初の河川を舞台に開催された大会であり、「清流が つなぐ未来の 海づくり」をテーマに、第30回全国豊かな海づくり大会岐阜県実行委員会と豊かな海づくり大会推進委員会の共催のもと、農林水産省、環境省の後援により開催されました。本大会は、水産資源の維持培養と海の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めてもらうための国民的行事として、昭和56年度から毎年開催されており、天皇皇后両陛下には、皇太子・同妃殿下の時代から御臨席いただいています。

式典行事は、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、大会旗入場に引き続き、戸部一秋岐阜県漁業協同組合連合会代表理事会長の開会のことばで始まりました。大会会長である横路



作文コンクール大会会長賞の朗読

孝弘衆議院議長が、「川から海にかけては、県の魚である鮎をはじめ多くの魚が回遊し、この、森から川へ、川から海へのつながりによって、豊かな海が育まれます」とご挨拶され、「豊かな自然を次世代に引き継いでいこうというメッセージを全国に発することは、大変意義深く、本大会を通じ、多くの人々に、日本の美しい森や川や海を愛する気持ちが生まれることを期待します」と述べられました。

続いて、古田肇岐阜県知事が、「今大会は、初めて河川で開催される全国豊かな海づくり大会で、これまでの水産資源の保護・増殖や水産業の振興に加えて、新たに、「水を守る」、「地球環境を守る」という「環境」の視点を重視し、大会に新たな歴史を刻むものであります」とご挨拶されました。また、尾藤義昭関市長が、「豊かな森や山から生み出された清らかな水は、川から海へと流れ、無限の命・生き物を育みます。河川で初めて開催される今大会を機会



大会マスコット ヤマリン

## 受賞者一覧

### 功績団体

#### ●栽培漁業部門

大会会長賞 北海道 えりも以西栽培漁業振興推進協議会  
 農林水産大臣賞 広島県 尾道漁業協同組合  
 水産庁長官賞 岐阜県 財団法人岐阜県魚苗センター

#### ●資源管理型漁業部門

大会会長賞 青森県 十三漁業協同組合・車力漁業協同組合内水面漁業権管理委員会  
 農林水産大臣賞 熊本県 松尾漁業協同組合  
 水産庁長官賞 愛知県 愛知県しらす・いかなご船びき網連合会

#### ●漁場・環境保全部門

大会会長賞 岐阜県 関市立瀬尻小学校  
 農林水産大臣賞 鳥取県 日野川水系漁業協同組合  
 環境大臣特別賞 岩手県 下内野自治会  
 環境大臣特別賞 山口県 榎野川流域活性化交流会  
 水産庁長官賞 神奈川県 財団法人神奈川県内水面漁業振興会

### 作文コンクール

#### ●小学低学年の部

大会会長賞 寺町 岳 純 関市立桜ヶ丘小学校2年  
 農林水産大臣賞 寺西 彩 華 魚津市立村木小学校2年  
 環境大臣賞 山下 朋子 海津市立下多度小学校3年  
 水産庁長官賞 宮澤 葉瑠花 鯖江市立北中山小学校2年  
 岐阜県知事賞 松永 悠彦 岐阜大学教育学部附属小学校3年

に、未来を担う子供たちを主役として、様々な取り組みを進め、今後の関市のまちづくりに繋がります」と歓迎の言葉を述べられました。

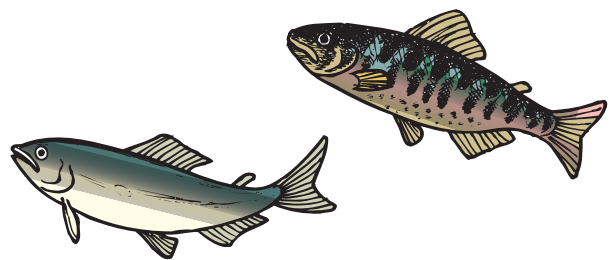
続いて、表彰式が行われ、横路大会会長、山田正彦農林水産大臣、小沢鋭仁環境大臣、町田勝弘水産庁長官、古田岐阜県知事がそれぞれの受賞者に表彰状を授与されました。作文コンクールで大会会長賞を受賞した、関市立桜ヶ丘小学校2年の寺町岳純くんが、最優秀作文「うつくしい海、いつまでも」を朗読しました。一年を通じ、潮干狩りや民宿に泊まりに行くのが好きな「ぼく」が、なぜ日本ではおいしい魚が食べられるのか、それは日本の海の水がきれいだから、でもたまに、海や砂浜でゴミを見かけるととても悲しく思う、日本の海がゴミだらけになってしまうと、おいしい魚が食べられなくなる、だからゴミは持ち帰るようにするんだ、みんなの力で自然を守っていきましょうよ、と力強く発表すると会場から大きな拍手が沸き起こりました。

続いて、服部郁弘推進委員会会長が、「清流が つなぐ未来の 海づくり」を合い言葉に、さらなる環境・生態系の保全に努め、豊かな森、川、海を守り育て、次の世代に引き継ぐことをここに決議する」と大会決議を宣言すると、満場の拍手で採択され、最後に大会旗が次期開催県の平井伸治鳥取県知事へと引き継がれました。

式典終了後は、会場を長良川河畔に移して、放流・歓迎行事が行われました。岐阜県の伝統漁法、小瀬鵜飼が鵜匠の巧みな手さばきにより厳かに披露され、引き続き9隻の舟により、

県内外にまたがる8つの流域ごとに作成された9本の回遊旗が披露されました。

まず、両陛下より小学生や漁業関係者に対して、「ヤマメ」、「ウシモツゴ」のお手渡しが行われました。続いて、最初に天皇陛下が「アユ」を皇后陛下が「アジメドジョウ」を放流されました。放流は2度に分けて行われ、2回目には天皇陛下が「カジカ」を皇后陛下が「アマゴ」を放流され、合わせて招待者もアユの放流を行いました。そして、自然への感謝と誓いを込めて参加者全員でカスタネットを叩くと、音色が対岸の山にやまびこし、会場一体に響きわたりました。



放流行事

#### ●小学高学年の部

大会会長賞	橋本夏林	高山市立宮小学校5年
農林水産大臣賞	岡田直己	蒲郡市立西浦小学校4年
環境大臣賞	塩谷優太	射水市立放生津小学校5年
水産庁長官賞	宮本果奈	七尾市立中島小学校6年
岐阜県知事賞	竹中瞭介	揖斐川町立久瀬小学校6年

#### ●中学生・高校生の部

大会会長賞	星場裕見	南知多町立師崎中学校1年
農林水産大臣賞	小出村弥歩	福井市立社中学校1年
環境大臣賞	周戸大季	郡上市立白鳥中学校1年
水産庁長官賞	國田光貴	福井県立小浜水産高等学校3年
岐阜県知事賞	中村生希	下呂市立金山中学校3年

#### 写真コンクール

##### ●高校の部

大会会長賞	畠山穂菜美	学校法人村山学園文理開成高等学校2年
農林水産大臣賞	大場史恵	学校法人村山学園文理開成高等学校1年
環境大臣賞	宮本弘輝	岐阜県立飛騨高山高等学校3年
水産庁長官賞	和泉宏明	愛媛県立八幡浜工業高等学校1年
岐阜県知事賞	村上拓真	岐阜県立飛騨高山高等学校3年

##### ●一般の部

大会会長賞	白石信夫	愛媛県宇和島市
農林水産大臣賞	高津照仁	三重県大紀町
環境大臣賞	古菅正道	東京都足立区
水産庁長官賞	山内佳子	北海道札幌市
岐阜県知事賞	近松文雄	岐阜県岐阜市

今大会は、河川を舞台に開催された大会であり、海だけでなく、豊かな海へとつづく川、里、森の一連のつながりが大きなテーマとなっており、その大自然の営みの中から私たちは魚介類をはじめとする食の恩恵を受けていることを、改めて感じさせられるものでありました。

第31回大会は、平成23年秋、鳥取県と豊かな海づくり大会推進委員会の共催により鳥取県で開催されることとなっています。

(写真提供：水産経済新聞社)



大会関連行事のタッチプールに興じる子どもたち



次期大会予定・鳥取県の大会マスコットにバトンタッチ

### 決 議 文

我が国は、森、川、海が、その豊かな恵みを人々に提供し、世界に誇れる日本型食生活と食文化を育んできた。人々は古より、自然と生活を見事に調和させ、絶ゆまぬ放流による資源の増殖や、環境の保全に努力してきた。かけがえのないこの自然が、生活と文化の基盤であることを再認識して、私たちは、この恵まれた環境を、誇りをもって未来へと伝えてゆかなければならない。

日本海に注ぐ庄川や神通川、太平洋につながる木曾川、長良川、揖斐川の木曾三川を有するここ岐阜県で、第30回全国豊かな海づくり大会が開催されるにあたり、「清流がつなぐ未来の海づくり」を合い言葉に、さらなる環境・生態系の保全に努め、豊かな森、川、海を守り育て、次の世代に引き継ぐことをここに決議する。

平成22年6月13日  
第30回全国豊かな海づくり大会

### 回 遊 魚

## 先を読むのは難しい

今年3月までの一年間は、名古屋にある第四管区海上保安本部で、海の流れや水温のデータを扱うセクションにいました。記憶に残ることの一つに、9月ごろ、多数の流木が九州南方に漂流しているのが見つかったことがあります。九州では漁業や海運に大きな影響を与え、また、数は多くありませんが黒潮に乗って東海地方の沖まで流れてきたものもありました。

しばらくして、今度は、大型クラゲが三重県沖で見つかったというニュースが耳に入りました。こちらは、東シナ海で生まれたと見られるクラゲが、対馬海流に乗って日本海をとおって、津軽海峡を抜け、本州の太平洋岸沿いに東海地方までやってきたものです。

流木について、九州沖で見つければ、いつかは東海沖にも流れてくるだろうと予想するのは簡単です。一方、大型クラゲの出現は自分では予想できず、突然のニュースに驚いたものでした。黒潮はともかく、本州の沿岸の流れは、頭に入っていなかったためです。

名古屋で一年間、日々変化する海を眺め、その知識をもとに、海のことについて「先を読む」ようにしていました。その読みと実際の結果を比べ、一致すればよし、はずれば「何かおかしい」と感じ、理由を考えながら次の行動につなげられます。でも、一年足らずの経験と知識では、クラゲの例で分かるように、深く読めるわけではありません。

水産庁に移って三ヶ月、海を眺めるというよりも、水産関係者や釣り人と接するという立場になりました。漁業や海洋レジャーの現場はほぼ未経験で、下手な読みさえもともにできず、周りに助けてもらう日々です。でも、グローバル化と専門化が進んだ社会の複雑さや、人の気持ちの移ろい易さを考えると、「先を読む」ことは、限界があるのかもしれない、そんなことを思うときもあります。



沿岸沖合課 遊漁・海面利用室長  
矢吹 哲一郎

# 水産庁が応援！ 漁業就業支援フェアの紹介

漁政部企画課

## 1. 事業実施の経緯

近年、就業先として漁業への期待が高まっています。水産庁では、漁業への新規就業を促進し、漁業の担い手の確保、漁村地域の活性化につなげていくため、漁業担い手確保・育成対策事業に取り組んでいます。

その一環として、今年度も全国各地（7月10日：福岡、7月17日：大阪、7月31日：東京）で、新規就業者を求める漁業者と就業希望者との出会いの場を提供する漁業就業支援フェアが開催されます。

## 2. 事業の概要

本事業では漁業就業支援フェアのほか、就業希望者の段階に応じたきめ細かなサポートプログラムを用意しています。

**ステップ1**：ホームページ等によって就業情報の提供、就業希望者からの就業相談の受付を行っています。

**ステップ2**：漁業への理解を深めるための体験漁業や座学を内容とした就業準備講習会を開催しています。

**ステップ3**：漁業者と就業希望者とのマッチングを行うための漁業就業支援フェアを開催しています。

**ステップ4**：就業準備講習会や漁業就業支援フェアに参加した方等を対象に、漁業現場での実践的な長期研修を実施します。

### 【研修期間】

大臣許可漁業

〔最長6か月（ただし幹部職員になるため海技免許を必要としこれを取得する場合は、最長2年）。〕

沿岸漁業

〔研修後独立して漁業を営む場合は最長1年、雇用される場合は最長6か月。〕

**ステップ5**：新規就業者が漁業経営上必要な技術の習得支援を行っています。

## 3. 窓口

全国漁業就業者確保育成センターで、ホームページ（<http://www.ryoushi.jp/>）の運営や漁業就業支援フェア等を行っています。また、地域における担い手の確保を強化するため、各都道府県の地域協議会・県漁連等に地方窓口を設置し、長期研修等を実施しています。

## 4. 事業の実績

平成21年度は、漁業就業支援フェアや長期研修等の参加者から、132名の新規就業者が生まれており、各地域の担い手として活躍しています。



全国センターHPによる情報提供



就業フェアの様子

求む漁師。

漁業就業支援フェア2010

7/31(土) 東京会場 東京国際フォーラム D7ホール



漁

漁師.jp

検索

## 第62回国際捕鯨委員会（IWC）年次会合の結果について

資源管理部遠洋課



69カ国が参加したIWC年次会合の日本代表团 中央右から3人目が日本代表の  
中前 IWC政府代表

平成22年6月21日(月)から6月25日(金)まで、アガディール（モロッコ）において開催されました第62回国際捕鯨委員会（IWC）年次会合の結果についてお知らせします。

### 1. 開催期間、場所

5月30日(日)～6月20日(日) 科学委員会等  
6月21日(月)～6月25日(金) 年次会合  
於：アガディール（モロッコ）

### 2. 出席国

IWC加盟国88カ国のうち69カ国

### 3. 出席者

(農林水産省)…舟山康江農林水産大臣政務官、中前明  
IWC政府代表、町田勝弘水産庁長官、  
香川謙二水産庁漁場資源課長、森下文  
二水産庁資源管理部参事官ほか  
(外務省)…柳谷俊範在モロッコ大使、高岡正人経済  
局参事官、青木豊経済局漁業室長ほか

### 4. 加盟国の状況

昨年の年次会合以降、ガーナ、ブルガリア、ドミニカ共和国が加盟し、本年の年次会合における加盟国は88カ国に増加しました。

### 5. 結果概要

#### (1) IWCの将来

会合初日の議題採択後に会合を一時休会し、二日間にわたり小グループによる個別協議を実施しました。

しかしながら、メンバー国間の基本的な立場に隔たりがあり、IWCの将来に関するコンセンサス決定には至りませんでした。このため、2011年の次回会合まで、熟考期間を設けることになりました。

我が国からは、科学に基づく議論を尊重すべき旨強調しつつ、全ての関係国が議長・副議長提案のアプローチにしたがってコンセンサス決定の実現に向け努力することを要請しました。他方、豪州、ラテンアメリカ諸国等は、事実上、同提案をベースに議論することを拒否しました。



舟山政務官による日本のステートメント発表

## (2) 海上の安全

我が国より、シーシェパード（SS）による我が国の鯨類捕獲調査船に対する妨害行為について、ビデオ等による状況説明を示しつつ、関係国が危険防止のための実効的な措置を講じるよう要請しました。

豪州、ニュージーランド、インド等がSSの妨害活動に対し非難を表明しました。

## (3) 先住民生存捕鯨

デンマークが、従来から要求していたザトウクジラの新規の捕獲枠を提案しました。また、突如、米国がデンマークと共同提案の形で、デンマーク、米国、ロシア及びセントビンセントに対する捕獲枠について、2011年から2017年までの7年間の捕獲枠を提案してきました。

デンマーク提案は、若干の捕獲数削減を条件にEUが受け入れを表明しました。豪州、モナコ、ラテンアメリカ諸国は反対しましたが、最終的に合意を妨げることなく、採択されました。

米国の共同提案は、議長・副議長提案の修正案という性質のため、各国から手続的な懸念が表明され、米国側は説明だけ行って、提案を撤回しました。

## (4) 次回会合

開催を希望する国が、2010年9月1日までに事務



会議前の打ち合わせをする  
舟山政務官と町田水産庁長官

局へ意思表示することとなりました。希望国がない場合、事務局（英国内）が開催することになります。

## 6. 二国間会談

舟山農林水産大臣政務官は、ニュージーランド、ロシア、モロッコ、セントキッツネイビス、米国、ノルウェー、アイスランド、豪州、韓国の代表と会合し、我が国の考えを申し入れしました。

# 子ども霞が関 見学デー

1. 開催日時 **8月18日(水)・8月19日(木)**  
10:00 ~ 16:00

2. 会場 **水産庁中央会議室**  
(農林水産省本館8階)

### 3. 今年のイベント

- 養しよく魚について学ぼう 大きい魚と魚の赤ちゃんがやってくる!
- クジラのことをもっと知りたい! クジラはどんな生き物かな?
- 水産加工品を知ろう! 鯉節削り体験・水産加工品のPR

## プレスリリース 6月分

発表年月日	発表事項名	担当課
H22.6. 3	「大西洋クロマグロ漁業国会合」の結果について	国際課
H22.6. 4	「日ソ地先沖合漁業協定」に基づく「日ロ漁業委員会 第26回 会議追加枠協議」の結果について	国際課
H22.6. 7	まぐろ類地域漁業管理機関 合同会合作業部会（「科学」・「監視取締措置」合同作業部会）の結果について	国際課
H22.6. 8	第二期北西太平洋鯨類捕獲調査船団の出港について（沖合調査）	遠洋課
H22.6. 9	台湾はえ縄漁船の拿捕について	管理課
H22.6. 9	「2010年度 第二期 北西太平洋鯨類捕獲調査（JARPNII）沿岸域鯨類捕獲調査（三陸沖）」の終了について	遠洋課
H22.6.11	山田農林水産大臣の「第30回 全国豊かな海づくり大会」への出席について	栽培養殖課
H22.6.14	「第13回 日韓漁業共同委員会 第1回 課長級協議」の開催について	国際課
H22.6.16	韓国まき網漁船の拿捕について	管理課
H22.6.17	大型クラゲ分布調査の実施について	漁場資源課
H22.6.18	「海洋・沿岸域における水産環境整備の技術検討会（平成22年度 第2回）」の開催について	計画課
H22.6.18	平成22年度カツオ長期来遊資源動向予測（6月～11月）	漁場資源課
H22.6.18	「国際捕鯨委員会（IWC）第62回年次会合」の開催について	遠洋課
H22.6.18	舟山農林水産大臣政務官の海外出張について～「国際捕鯨委員会（IWC）の第62回年次会合」への出席～	遠洋課
H22.6.21	「第13回 日韓漁業共同委員会 第1回 課長級協議」の結果について	国際課
H22.6.26	「第62回 国際捕鯨委員会（IWC）年次会合」の結果について	遠洋課
H22.6.30	平成22年度 第2回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報	漁場資源課

## 編集後記 “窓辺のカーテン”

今年のお祭り大会は、例年より早く6月に長良川水系で開催されました。ちょうどアユが川に上がってくる季節。陸下にお手放しされた若アユもピチピチと跳ねて長良川を泳いでいったことでしょうか。あのキュウリのようなアユのおいしさを嗅ぐとツーンと夏の記憶がよみがえります。子どもの頃、アユは頭から食べるものだと親にいわれて、あのトゲトゲの鋭い歯のある口を涙目で見つめながら、大人になったら頭を外しておいしい身だけいっぱい食べたい、と思ったものです。

「漁政の窓」では皆様に水産庁施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、今後ともよろしくお願いたします。ご意見やご質問がありましたら下記にお寄せ下さい。



水産庁施策情報誌 漁政の窓

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111 (内線6505)

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>ご意見 ご質問はこちらへ → URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>